

# 科学研究AIの三つ巴：研究ワークフローを制するのは誰か？

2026年、AI大手3社の競争は「モデル性能」から「研究現場への深い統合」へ。各社が描く「科学OS」の戦略的配置と機能差。

## Anthropic：研究者の「手元の作業机」

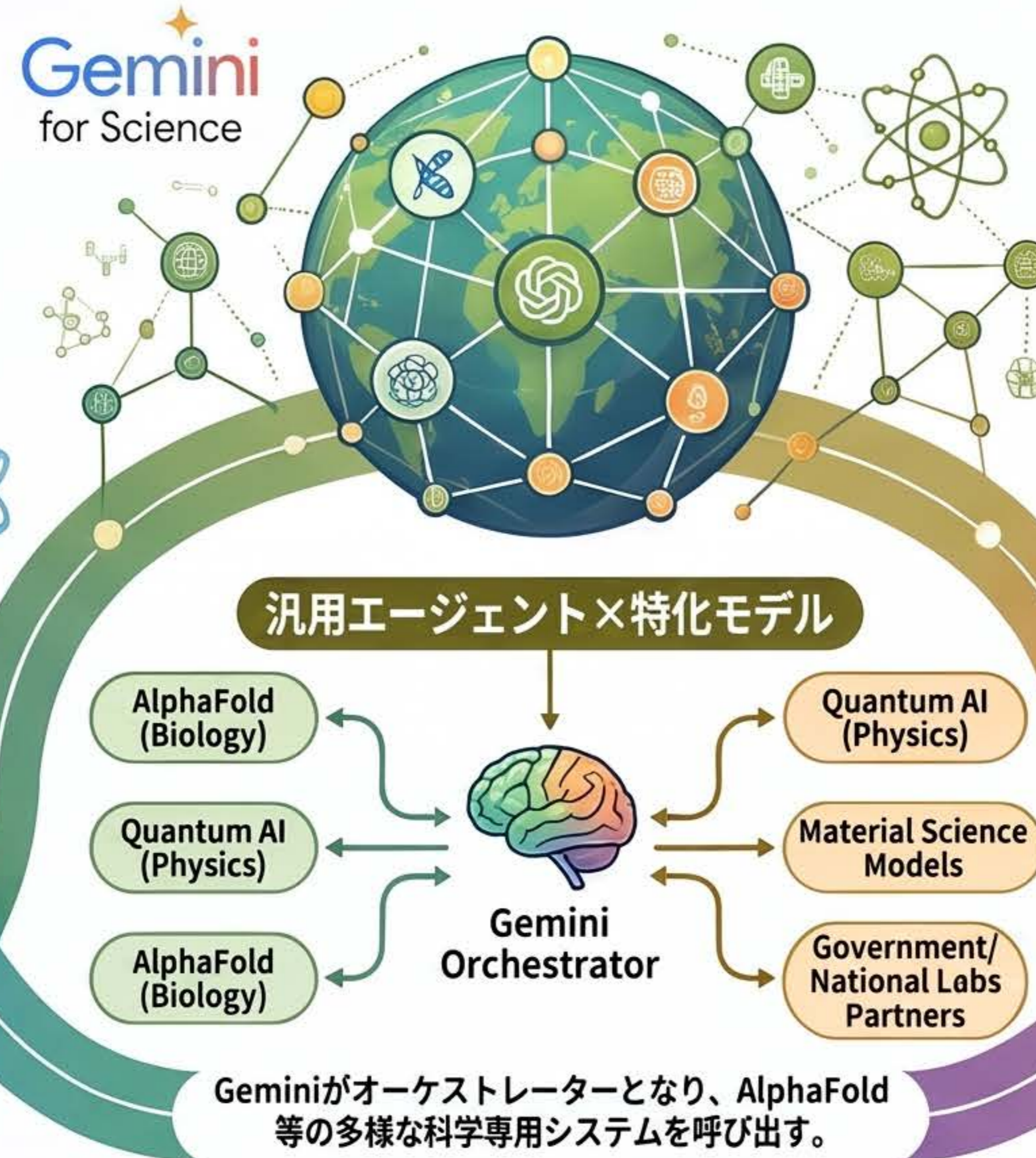
60超の科学DB接続と計算実行、再現性の記録を一つのワークベンチに統合。



コードや実行ログ、環境を成果物単位で保存し、科学的監査に対応。

## Google：「科学資産と制度的ネットワーク」

AlphaFold等の特化モデル群と、政府・国家レベルの強固な提携が武器。

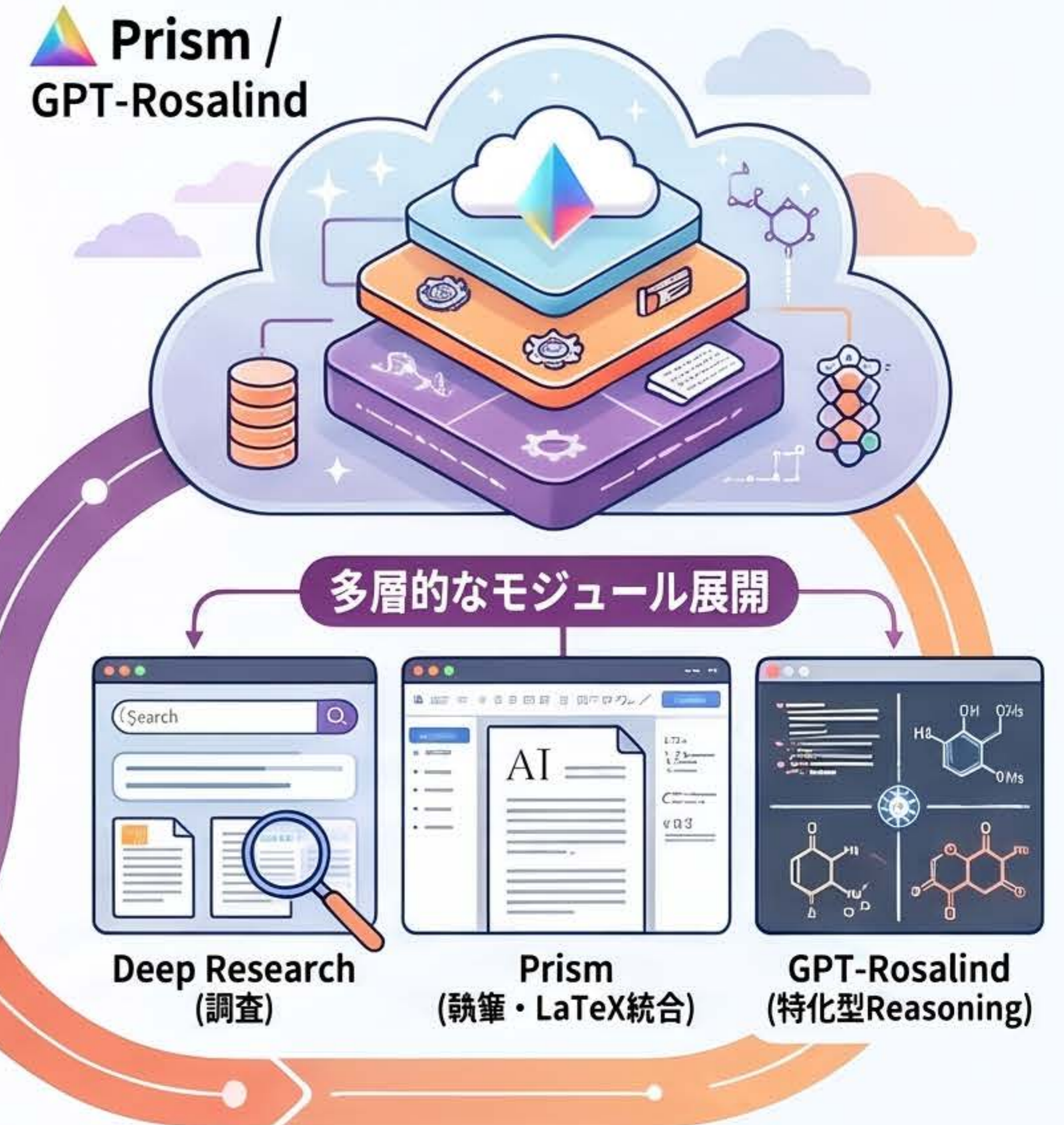


## 3社の主要な科学系ソリューションの比較

Anthropic (Claude Science)	Google (Gemini for Science)	OpenAI (Prism / GPT-Rosalind)
主な武器：60超の科学DB / 再現性ログ	主な武器：AlphaFold系資産 / 制度提携	主な武器：論文執筆UI / 専門Reasoning
強み：研究現場の実装・実行環境	強み：科学的創造性・計算資産	強み：調査・執筆の効率化
接続性：ローカル・HPC連携重視	接続性：エコシステム全体の統合	接続性：クラウド/APIによる水平展開

## OpenAI：「クラウド完結の研究スタック」

調査から論文作成 (LaTeX統合) まで、研究工程の全レイヤーをAPIとアプリで網羅。



調査用のdeep research、執筆用のPrism、特化型のGPT-Rosalindを使い分ける。